

2008 年

10 月 17 日（金曜日） - みながみなを自分のことのように想う共生のまちづくり『不法投棄を考える府民の集い IN 京丹後』 -

本日、「不法投棄等撲滅を考える府民の集い」が本市において開催されました。

平成 13 年から京都府知事を代表に「不法投棄等撲滅京都府民会議」が設置されており、「不法投棄をしない、させない、許さない」地域づくりを目指し、地域住民と協働した府民運動を展開している。2 年に 1 回、府内各地で府民の集いが開催され、本年、初めて本市で開催されました。

本市においても、自然な環境に包まれている分、山間地や海岸沿いなど、人目につきにくく、容易に車で乗り付けられる場所などに、家具や家電、廃材やタイヤ、時に車なども含め不法投棄がなされている実態が残念ながらあります。これらに対し、防止看板・防止ネットの設置や回収作業への実施や機械類等負担を実施するとともに、小学生の皆さんからの標語募集や京都府はじめ関係機関の皆様と防止キャンペーンに取り組むなど、年間 100 万円以上の予算をいただいでできる限りの対応をさせていただいている。

防止の上で大切なのは、一つは、環境保全に対する意識や行為を周知啓発していくことであり、例えば森本・村づくり委員会の皆さんは、例年、竹野川をボートやカヌーで下り、川のクリーン作戦を実施していただいていたたり、環境学習の機会として内山ブナ林観察会や小学生の宇川探検隊など年間 50 回前後の多く機会が設けられており、様々な関係者の皆さんのご努力に心から敬意を感じます。今後とも、このような取り組みをはじめ、より一層各地域や市民それぞれの皆さんと思いを合わせて防止対策に取り組んでまいりたいと思います。

そして大切に欠かせないことは、不法投棄の背景にはどのような個人的な事情があるとしても「自分さえよければいい」という自分勝手な考えが底辺にあることに目を向けることであり、これを野放しにしておくことは、その意味で、健全なまちづくりをむしろばんでしまうことにもつながり、広くまちづくりの根本に関わる問題として受け止めて対応を進めなければならないと思っています。この点、自分さえよければいいという考えを減していくまちの気風の醸成ということが不法投棄を根本的に解決していくうえで重要なことであり、他人や地域、また地球環境を想う心、みながみなをそれぞれ自分のことのように想う共生のまちづくり、ひいては利他の気風につながるまちづくりを日ごろから各分野で積み重ねていくことが、時間はかかることですが、今改めて大切なことだと改めて感じています。